

# 平成22年度予算が決定

平成22年度の一般会計予算は、前年度比で6.8%増の338億2000万円の規模となっています。歳入の市税全体の特徴は、市民税の減額に対して企業進出等の固定資産税の伸びが目立っています。自治体経営の実質的な財源として景気変動に影響されない税目が改めて注目されます。



## 安全でいつも安心して住めるまちづくり

安全安心の防災対策を進めるために、政府広報番組で紹介された自主防災活動を主軸にしながら地域防災リーダーを核にした災害対策を前進。

治水対策は、中堰排水機場の設備更新・彦成川、下第二大場川の改修・二郷半用水の自然護岸水路などの整備。消防施策については、救急フェスタ

の開催や、中学生への「AED」を使用した救命講習会の推進。消防団の機噐器具置場を整備・各種災害対応機噐車の購入。

防犯対策は、夜間防犯パトロール・地域防犯活動の推進。消費生活相談で振り込め詐欺や消費者ローン等の被害への対応。

## 水と緑を大切にしたい環境にやさしいまちづくり

環境問題に対する市民の心を大切にするため、児童による「メダカやカエル」などの地域の生き物の生息分布図を作成。

また、三郷市環境基本計画を見直す中で、温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定に取り組み、緑の基本計画を改訂。



## 都市基盤の充実した住みやすいまちづくり

江戸川の緊急用船着場や三郷中央地区の公益施設を市民交流拠点として位置づけ、これらの拠点を総合的に整備推進するために「にぎわい拠点準備室」を設置。市民と行政による協働の理念の実現を目指します。

水や緑の自然と道路や鉄道のアクセスの調和を大切にしながら、三郷中央駅・新三郷駅・三郷インターチェンジ周辺地域の拠点整備をさらに推進し、景観への配慮をした景観計画の策定や

景観条例の制定に着手。

公園整備については、三郷スカイパーク内の健康遊具・彦糸公園内の水遊び空間の設計。

道路や橋梁については、都市計画道路新和吉川線・新高州線の整備、常盤橋などの掛け替え工事等の施工。

交通施策としては、バス路線ガイドマップの作成を進め、道路照明灯・反射鏡・看板等の施設調査の推進。

## 魅力的で活力のあるまちづくり

商工業振興対策については、商工会・商店会連合会、関連機関と連携し、商店街振興事業を推進。市内中小企業振興のため販路拡大・技術開発創造力の向上、経営体制の強化促進など総合的な支援を促進。

農業振興については、持続性・安定性のある都市型農業推進を図るための農業経営の支援。

雇用対策は、埼玉県ふるさと雇用再



生基金などを活用。市内事業所と協力しながら新たな雇用の創出に努力。沼市民センター内の三郷市ふるさとハローワークでカウンセリング・内職相談などの充実を図り、就業者支援を増進。

地域ブランド力の向上の視点から、公式キャラクターや情報発信拠点「らほっとみさと」の積極的活用を通して魅力ある観光振興へ。

## 人が育ち活躍できるまちづくり

地域社会【コミュニティ】の意義を見直し、コミュニティリーダーのあり方を考える施策を展開。

学校教育における三郷市のオリジナルティとして副読本「言葉の力」を作成し「読書のまち三郷」を推進。

校舎耐震化事業は、前谷小学校・彦郷小学校・高州東小学校で耐震補強工事。早稲田小学校で耐震診断、八木郷小学校・前川中学校で耐震設計を実施。生涯学習については「読書のまち三



郷」に合わせて図書館の蔵書充実や学校図書館との連携強化。

スポーツレクリエーションでは、総合体育館サブアリーナ・武道場及び沼市民センターへの空調設備設置。早稲田中学校への夜間照明設備の設置。勤労者体育館・高州地区体育館の空調設備設計。

男女共同参画については、第3次三郷男女共同参画プランの策定と推進。

## 健やかで自立した生活を支え合っまちづくり

福祉全般サービスの相談窓口として健康福祉会館4階に「ふくし総合相談室」を設置。

健康推進には、三郷スカイパークを拠点としたウォーキング指導などの健康作り事業を実施。

子ども医療費の支給については、平成21年度には入院にかかる対象年齢を中学3年生まで拡大し、平成22年度は通院についても10月から中学3年生へ拡大。

小児時間外（初期救急）診療体制は、4月から三郷市医師会の協力を得て三郷市単独で実施。

南児童センター、早稲田児童センターへ指定管理者制度を導入し、子育て環境の整備をはかりながら市民サービスの向上。

保育サービスについては、認定こども園の設置に向けて「安心こども基金」を利用しながら整備費用を支援。

高齢者施策については、かかりつけ医療機関等の情報を保管する救急医療情報キットの配布で、緊急時対応が可能になるように。シルバー元氣塾では、介護予防事業を進めながら高齢者の健康作りに配慮。

障がい者施策については、しいの木



## 豆知識 鬼怒川温泉

752年に鬼怒川の西岸に温泉が発見され、明治2年（1800年）に東岸に藤原温泉を発見。昭和2年（1927年）に滝温泉と藤原温泉を合わせて鬼怒川温泉と呼ぶようになった。

「傷は川治、火傷は滝」と称され箱根や熱海と並んで東京の奥座敷と呼ばれ、日光詣で帰りの諸大名や僧侶達に親しまれた。

弱アルカリ性、単純温泉は傷の他にも神経痛・筋肉痛・関節痛などにも効能があり、無色で34℃～53℃。

鬼怒川の由来については、①毛野川がなまって鬼怒川②鬼が怒るように荒々しい流れ③絹村で絹を洗っていたことから絹川④水源が鬼怒沼だから。信憑性が高いのは②番の荒々しい流れからのようである。

